

ジェンダーを規定する服装デザインに関する研究

A18AB071 関口 由莉

1. はじめに

近年では、性の多様化により、「男性らしさ」や「女性らしさ」、といった、性そのものの二元論が問い直されている。ジェンダーとは「社会的・文化的な性差」と一般的に訳され、先天的なものではなく文化的に身に着いた、あるいは、作られた性差の概念のことである。

これまでファッションは、人々が個性を表現するためのツールとして用いられてきた。東野充成氏によると、「ファッションは様々な社会学的意味をまとう、と同時に“他とは違う自分”を表現するメディアであり、ファッションを身にまとう人びとのアイデンティティと密接に連携している」という。性の多様化は、一人一人のアイデンティティをより強く確立させる。人々は、それらをファッションに落とし込むことで、自身のアイデンティティを表現しているといえる。

また、伝統的な衣服には男女の区別がある。長い歴史のなかで根強く存在した和服文化は男女区別を表す象徴ともいえる。しかし、近年では、性の多様化により『ジェンダーレスファッション』が注目され、“性を表すファッション”と“性を乗り越えるファッション”が存在してきている。

そこで本研究では、性とファッションについての意識調査から、ジェンダーを規定する服装のイメージ評価実験を行うことで、服装のどのような要因が性を規定するかについて検討することとした。

なお、本研究の要因解明が今後のジェンダーレスファッションのデザイン及び企画、提供に貢献できるものと考える。

2. 研究方法

2-1 各形容詞におけるジェンダーイメージ調査

被験者10名を対象に、「エスニックな」「エレガントな」「カジュアルな」「ガーリーな」「キュートな」などの形容詞を、23用語取り上げ、男性的な、女性的なに対し、SD法を用いた5段階評価を行った。

2-2 性とファッションに対するイメージ評価実験

2020-21 A/Wコレクションを中心とし、ランダムに110体の着装画像をインターネットから選出した。各アイテムのデザイン、全体シルエット、色別に分類（表1）し、出現率の高い25体を実験試料として図1に示した。

表1 分類項目

カラー	スリーブ	テクニック	色
0 ノー（なし）	0 ノー（なし）	1 フリル	1 赤
1 スタンド	1 ドルマン	2 タック	2 黄
2 シャツ	2 ラグラン	3 ギャザー	3 緑
3 ロール	3 シャツ	4 ウエストマーク	4 青
4 テーラード	4 セットイン	5 タックド	5 紫
5 フラット	5 タックド	6 フレア	6 ピンク
種類	7 パフ	7 ベージュ	7 ベージュ
1 スカート	8 パフ	1 ストレート	8 茶
2 パンツ	9 パフ	2 Aライン	9 黒
スカートの形態	10 パフ	3 トライアンギュラー	10 グレー
1 タイト	11 パフ	4 Xライン	11 白
2 セミタイト	ショート	5 スリムライン	
3 フレア	ガウチョ	6 バレルライン	
4 プリーツ	ペタルプッシュ		
5 ティアード	シャー		
	4 スキニー		
	5 ワイド		



図1 実験試料

実験は、上記試料を1種ずつ提示し、女子大生30名を被験者としてSD法による5段階評定の官能調査を実施した。得られた評価から平均官能量を算出するとともに、因子分析にて関与する要因について分析し、検討した。

3. 結果及び考察

3-1 各形容詞におけるジェンダーイメージ調査

表2にジェンダー尺度（男性的な－女性的な）の範囲の差を示した。最も差が大きかったのは「優雅な」であり次いで「華やかな」「上品な」と続いている。上位のイメージ用語は軟らかい印象の用語が多く出現している。

この結果からジェンダー尺度の差が大きかった「優雅な」「華やかな」「上品な」「きれいな」「キュートな」「クールな」「スタイルッシュな」「エレガントな」「フェミニンな」「カジュアルな」「スイートな」「ポップな」「古風な」「素朴な」「レトロな」「ゴージャスな」「モダンな」「ナチュラルな」「エスニックな」「スタンダードな」「斬新な」「ガーリーな」「シンプルな」10用語をイメージ評価実験の形容詞として使用することとした。

表2 ジェンダー尺度の差

形容詞	ジェンダー
優雅な	1.3
華やかな	1.2
上品な	1.1
きれいな	1.0
キュートな	0.9
クールな	-0.8
スタイルッシュな	-0.8
エレガントな	0.7
フェミニンな	0.7
カジュアルな	-0.7
スイートな	0.6
ポップな	0.6
古風な	-0.6
素朴な	-0.6
レトロな	0.5
ゴージャスな	0.4
モダンな	0.3
ナチュラルな	0.2
エスニックな	0.2
スタンダードな	-0.2
斬新な	-0.2
ガーリーな	0.1
シンプルな	0

3-2 性とファッショントレンドに対するイメージ評価実験

(1)官能検査結果

図2に10形容詞の官能検査結果を示した。

一例として、最も華やかな印象を与えたのは、試料14であり、試料17、試料15、試料16も「華やかな」を示す平均官能量が大きいことから、華やかさは色彩とフリルなどのディテールから影響を受けると考えられる。

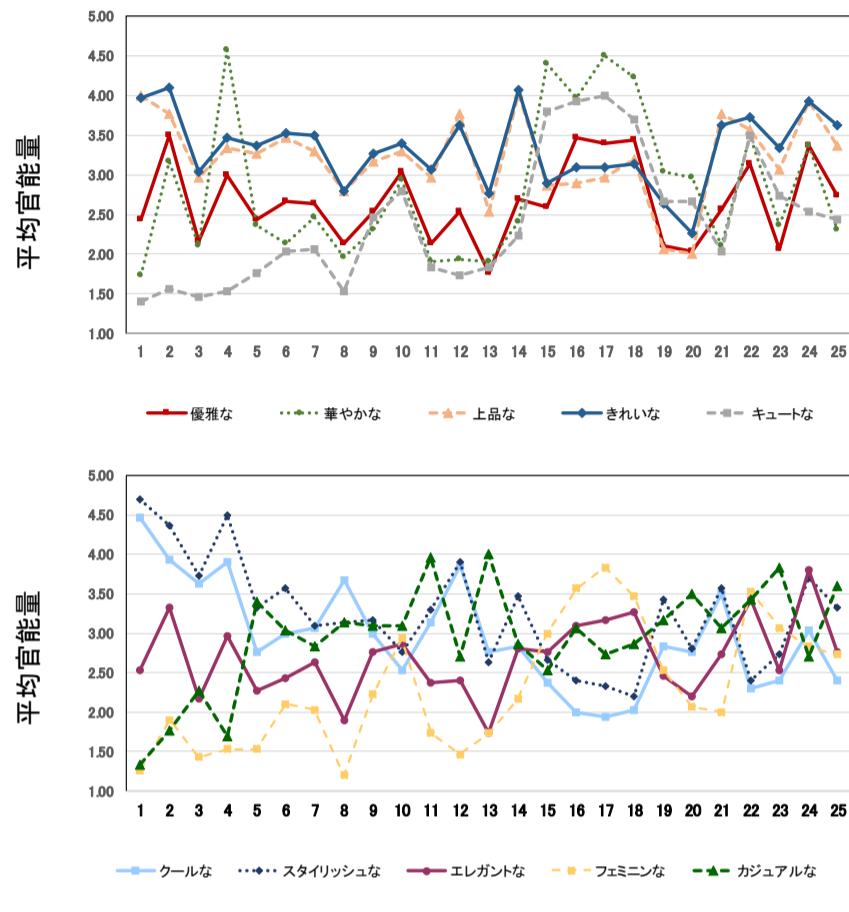


図2 平均官能量

(2)因子分析結果

次に、これらのイメージに関する要因を検討するために、得られた平均官能量をもとに、因子分析（主成分分析法）を行いプロマックス回転後の結果を表3に示した。まず、第1因子で高い値を示したのは「クールな」「スタイリッシュな」「キュートな」「フェミニンな」「カジュアルな」の5イメージであり、「活動性の因子」とした。第2因子では、「華やかな」「優雅な」「エレガントな」の3形容詞が高く「優美さの因子」とし、第3因子では「きれいな」「上品な」の2形容詞が高く「評価性の因子」とした。

また、図3の因子得点プロットから、試料8、試料11、試料13は因子分析で「優雅な」と「華やかな」の形容詞を含む「優美さの因子」の得点が低いことから、ジェンダーレスファッショントレンドを代表すると考えられる。

表3 因子分析結果

イメージ	FAC1	FAC2	FAC3	共通性
クールな	-0.967	-0.399	0.255	0.953
スタイリッシュな	-0.943	-0.221	0.428	0.918
キュートな	0.837	0.694	-0.158	0.939
フェミニンな	0.826	0.724	0.043	0.951
カジュアルな	0.707	-0.414	-0.392	0.915
華やかな	0.352	0.906	-0.073	0.937
優雅な	0.160	0.886	0.577	0.905
エレガントな	0.203	0.870	0.613	0.920
きれいな	-0.373	0.212	0.984	0.978
上品な	-0.389	0.183	0.969	0.954
寄与率(%)	46.9	35.7	11.0	
累計寄与率(%)	46.9	82.7	93.7	

因子抽出法: 主成分分析
回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

試料15、試料16、試料17、試料18、試料24はパステルカラーやギャザー、フリルなどのテクニックがみられ、それらは女性的な印象に繋がりやすい要素であることが判明した。

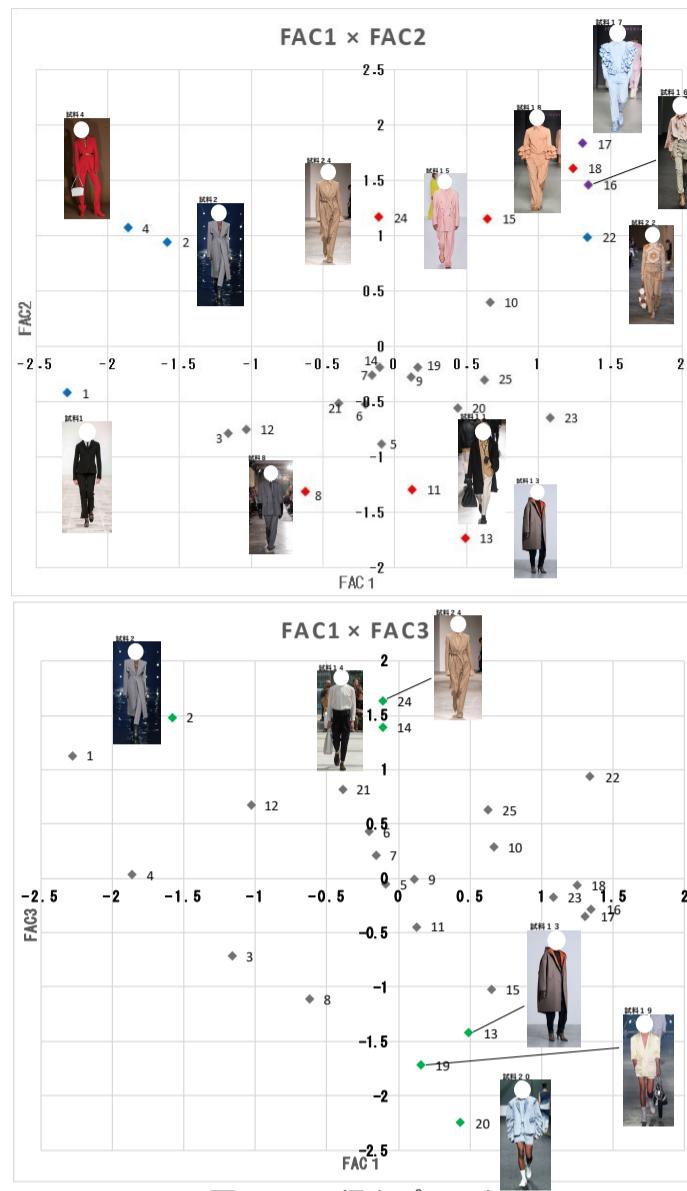


図3 因子得点プロット



図4 優美さに関するスタイル

4. おわりに

本研究により、ジェンダーに関するイメージには活動性、優美性、評価性の因子が内在することが判明した。また、パステルカラーやフリルやギャザーは女性的な印象を与える要素と言え、これらのテクニックが女性を象徴するものではなくなるときに真のジェンダーレスファッショントレンドが生まれると考える。

5. 参考・引用文献

- 1) 東野充成：ファッショントレンドとアイデンティティ (2013)
- 2) シャネルやディオール、トム ブラウン「美」の定義の変化——ジェンダーレスが進む20-21年秋冬パリコレクション : <https://www.vogue.co.jp/fashion/article/paris-2020aw-trends-cnihub>
- 3) 田和真紀子：程度副詞の評価性をめぐって